

2024.7
JULY
No.23

高知大学医学部附属病院広報誌
隔月刊【おらんくの大学病院】

RANK

RANK

2024.7 JULY No.23

高知大学医学部附属病院広報誌
隔月刊【おらんくの大学病院】

【発行日】2024年7月20日

【発行】高知大学医学部附属病院 広報係 〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮 Tel.088-880-2723

「君の熱い志」を、全力で応援したい！

呼吸器外科教授 田村 昌也



高知大学医学部附属病院



<http://www.kochi-u.ac.jp/kms/hsptl/index.html>



＼広報担当者のつぶやき／

私は学生時代サッカー部でした。社会人になり運動とは疎遠な日常を送りつつも、ワールドカップなどの話題に触れる機会があると、懐かしさと共に心が躍る感覚があります。

今回、表紙の撮影で春野総合運動公園で開催された高知ユナイテッドのゲームにお邪魔しました。芝の匂いと歓声と…本当に楽しい時間でした。今度はプライベートで応援に行きたいと思います！



「君の熱い志」を、 限られた時間の中、積極的に自分の将来を切り拓いて欲しい 全力で応援したい!

「最善の治療と高レベルの手術ができる研究熱心な若手医師を育てたい」。
並々ならぬ思い入れを抱いて、
2022年、金沢大学附属病院から高知大学へ赴任。
今回は、本院の呼吸器外科 田村昌也教授から
高知での印象や若手医師たちへの熱い呼びかけを聞くことができた。

かつて 自分を手術した、 外科医の カッコ良さに憧れて…

医師を志すきっかけは、
何でしたか。

実は小学5年の時に虫垂炎から腹膜炎を発症し、その時手術を受けた外科医のカッコ良さに憧れたのと、手塚治虫の漫画『ブラックジャック』のファンだったことの影響も大きいでしょうね。

医師になってしばらくは消化器外科を志していましたが、学位が呼吸器であったのと周囲に呼吸器外科を選択する先生が少なかつたことなどもあり、現在の呼吸器外科領域を

初めての手術のインパクトから、
この分野を究めてみたいと思った

選択するに至りました。当時、胸腔鏡下で行った初めての手術がとても興味深く「この分野を究めてみたい」と強く思ったことが記憶に残っています。

手術を計画する際に
まず何を考えられますか。

また、手術までのルーティン
などがありましたら
聞かせてください。

手術がその患者さんにとって益となるかを考えたのち、決定となれば前々日までに準備を整えてシミュレーションを

行います。また、前日はリラックスして体調維持に努めるのがルーティンになっていますね。

田村教授における
基礎と臨床のバランスは、
どんな感じですか。

あくまで臨床重視ではありませんが、日々の手術、臨床の中から湧き出てくるクリニカルケースとチヨンの解決に結びつくような臨床研究を心がけています。機器の開発など臨床に直結、還元できる研究に取り組んでいきたいですね。基礎研究に充てる時間は限られてきますが、それが臨床に関係するテーマであれば、基礎系の教室のお力を借りながら行っていきたいと考えています。

医師となつてからの、
心に残っている

エピソードなどはありますか。

以前、自分が執刀した患者さんが合併症を発症し、残念ながら亡くなりました。当初はご

族から非難を受けたこともあって辛い思いに苦しみましたが、毎日最善の治療を行い誠心誠意で説明させてもらった結果、お看取りの際にご家族から感謝の言葉をいただいたことが忘れられません。そのことを思い出すたびに、心にかえり身の引き締まる思いになります。

仁淀ブルー、 カツオのおいしさ… しばらくは高知に 感動ばかりの毎日

さて、先生が赴任されてからの
高知の印象は
いかがでしょうか。

高知はとても住みやすく、家族にとっても大好きな場所になりました。

した。祖父母が静岡の田舎に住んでおり、小さい頃にはよく遊びに行つては山や川など自然の中を走り回っていましたので、当時の原体験とリンクするロケーションということもあり非常に懐かしく、ホッとさせてくれる土地ですね。

中でも川の美しさは感動もので、いの町の「にご淵」をネットで検索した時には、こんな場所が本当にあるのかと思いましたが、実際目の前になると想像以上の絶景でした。あの仁淀ブルーの衝撃は忘れることはないでしょう。

食べ物で言えばカツオのおいしさ。初めて高知のカツオを食べた時、こんなにおいしいのかと思わず妻と顔を見合わせました(笑)。

実はもう一つ、高知の雨の強さには驚かされましたね。曇りと雪の日が多い北陸から来た我々にとつて、晴れの日が多い高知はありがたいのですが、集中豪雨で近くの用水路が氾らんした時は相当怖かったです。



ところで、
先生は他の何よりも
サッカーがご趣味だそうです。
はい(笑)。小学4年の時にサッカー少年団へ入団し、6年までプレーしていました。小学生の時は足が速かったのでウイングでしたが、中学からはデフエンダー筋。テクニク系というよりはパワー&ガッツ系で高校では県の選抜に選ばれましたが、のちにJリーグに



入団した選手とのあまりの力の差に愕然としたのも、つい昨日のことのようです。
医師になつてからはずっと地元のJリーグチームを応援してきましたが、高知に来てからはJFL(アマチユ最高峰リーグ)の高知ユナイテッドですね。相変わらず本気で応援しています。高知ユナイテッドは今シーズン、開幕から連勝が続きタレントの首位を走る活躍を見せています。もう興奮しっぱなしです。

目指して欲しいのは
達人と言われる領域の
手術を極めること!

医学生や初期臨床研修医に
伝えたいこと、
また若手の医師たちへの
エールをください。

いろいろな科をローテーション、研修するかと思います。将来的に進みたい科が決まっているのかかわらず、どの科でも積極的に学び研修する姿勢で取り組めば、将来どこかで役に立ちます。ですから教える側としては、最高の医師を育てるための知識や心構えを伝えるようにしてい

るのです。時に、興味がなさそうな態度を取られると非常に残念な気持ちになります。いろいろな質問できる時期は限られていますから、我々にどんな質問して欲しいし、今の時間を全力で研修してください。

そして、これから外科医を志すのなら、まず誰もが認める標準的な手術ができることを目指してください。さらには達人と言われる領域の手術を極めることが大切です。学会などで全国の同年代の医師たちと交流しながら、独自の研究など自分なりの「売り」が作れるとさらにいいと思います。そういう志のある医師たちが切磋琢磨し合い、高

知県の呼吸器内科の診療レベルを全体であげていきましょう。
高知大学附属病院の強みは
どこにあると思われませんか。
まずロボット支援下手術を筆頭に最先端の手術、検査法を行うことができる点、心臓血管外科や

整形外科などと共同で拡大手術も可能であること。さらには総合病院として呼吸器内科はもとより循環器科、心臓血管外科、放射線治療科など各科が密に連携し合いながら高い総合力で治療が行えることなどが強みではないでしょうか。

同年代の医師たちとの交流を深め、
自身の「売り」を見つけていることが大事



呼吸器外科 教授
田村 昌也 (たむら まさや)

【経歴】

1996年 金沢大学医学部附属病院 第一外科 研修医
2001年 金沢大学大学院 医学研究科(外科学専攻) 修了 医学博士
2007年 オーストリア共和国ウィーン大学 胸部外科 留学

2008年 金沢大学医学部 心肺・総合外科 助教
2014年 金沢大学附属病院 心肺・総合外科 講師
2016年 金沢大学附属病院 先進総合外科 講師・臨床准教授
2020年 金沢大学附属病院 呼吸器外科 講師・臨床准教授
2022年 高知大学附属病院 呼吸器外科 教授
現在に至る

【専門分野】

呼吸器外科全般

【専門医等資格】

外科専門医・指導医、呼吸器外科更新専門医・評議員、気管支鏡専門医・指導医、がん治療認定医、肺がんCT検診認定医、胸腔鏡安全技術認定医、Certificate of da Vinci System Training (Console Surgeon)

先生が人生の中で

大切にしている言葉など
ありましたら、
教えてください。

研修医時代にご指導いただいた先生の言葉ですが、よき人生を送るために、「稼ぐこと」、「学ぶこと」、「憧れること」という言葉が今でも明確に刻まれています。生きていく上でお金は重要ですし、学びを続けることも大切です。しかし、憧れることは年を重ねるに連れだんだん薄れていくものです。その気持ちはいくつになっても持ち続けたいですね。私は今でもその言葉をいただいた先生の手術や周囲との接し方、生きざまに憧れ続けているのです。

宮崎先生は本学呼吸器外科に13年勤務されていますが、どういった経緯で呼吸器外科に来られたのですか。

宮崎 研修医当時師事していた大先輩の医師に憧れたのが直接の理由でした。呼吸器外科の手術はその多くが肺の手術です。肺の手術は他の外科手術よりも、繊細な技術を要求されます。医師になって3年目頃にはかなりの数の手術を経験し、繊細で難しいがゆえに、やりがいと魅力を見出し、ました。それから次々に自分のスキルを問われるような難しい手術を手掛けてきたことが、現在のチャレンジ精神につながっていると思います。

医療の世界も飛躍的に進歩していると思いますが、とりわけこの十数年で、先生が感じるのはどういったところでしょうか。

宮崎 私が入職した頃は開胸手術が基本であり、小さな手術だけ鏡視下だったんですね。今は9割近くが鏡視下手術となっています。手術の難易度も上がるためかかる時間は多少長くなりましたが、当初に比べると随分時間は短縮されてきたことを実感しています。日進月歩とはよく言ったもので、この10年を振り返るだけでもダビンチによるロボット手術や傷を一つにしたユニポートVATSにより低侵襲化が進んでいます。ですから患者さん本人のストレスも減り顔つきも全然違います。手術当日から晩ごはんを食べておられる患者さんもありますし「こんなに楽だとは思わなかった」と笑う方も。大病院ということもあって、医療の進歩の凄まじさを自分の目で見てきたことも大きな収穫です。

先生の後輩にあたるこのことで、始めから呼吸器外科に決められていたそうですね。

古川 ええ。研修医時代にポリクリで外科を回る中、肺の部分切除手術をやらせてもらったことがあり、その時点で「自分がやりたいのはこれだ」と、気持ちは固まっていた。実際半年間回ってみて、肺の手術の繊細さに面白味を感じていました。

宮崎先生は医学部の先輩でもありますし、経歴値も僕とは比較になりませんから、仕事に関してや患者さんへの問診の仕方など、あらゆることで相談できる頼りがいのある先輩です。今、目標にされていることはありますか。

古川先生は本学の卒業生で宮崎

古川 まだ僕は医師としてわ

新しいことを取り入れ挑戦し続ける！ この姿勢を若手に伝えていく。

田村昌也教授率いる呼吸器外科は、チームワークの良さと丁寧で繊細な治療が特徴的だと聞いた。ここでは本学の卒業生である宮崎涼平助教と、その後輩にあたる古川直紀医師に呼吸器外科の魅力を存分に語ってもらった。

✓ ずか1年半の新米ですから、手術に関して最初から最後までは助けがいないと二人では難しい。まずは、時間がかかってもラストまで二人で完了させるのが目標ですね。そういった意味でも今が自分にとつていろいろな技術が吸収できるときで、全てが新しいチャレンジと捉えています。

宮崎先生から見た高知大学の呼吸器外科の魅力はどんなところにあると思われますか。

宮崎 たくさんありますよ(笑)。当科は移植以外の手術を全て行っています。化学療法も含め診断、手術、患者さんの緩和ケアまでの全てを手掛けていることだと自負しています。例えば、抗がん剤治療は内科に、この部分はここに任せるというのでは無く、手術をした患者さんに対し、基本的に最後まで自分たちで面倒を見さ

せていただくスタイルが、がん治療における呼吸器外科の自慢できる部分でもあり、ウリでもあります。また、これは僕たちの時代からずっとですが、研修医たちに対しても一例でも多くの手術を経験させようという方針ですから、他院と比較しても多くの経験を積むことができ、スキルアップにもつながるのではないかと思います。

古川 医局の雰囲気の良いについては僕から話させてもらいます(笑)。うちは特別かもしれませんがお互いのプライベートに干渉せず、それぞれがそれぞれの時間を大事にしているイメージです。仕事とプライベートをきっちり分けているからこそ、仕事に関してもわだかまりなく和気藹々としてきていると思います。

お二人のお話から、呼吸器外科

の仲の良さや連携の深さが伝わってきます。そういったことから生じる成果もたくさんあるでしょうね。

宮崎 そうですね。最近の症例ですが、ほとんど大きくなくて腫瘍を抱えた患者さんのケースです。放射線科や呼吸器内科と連携しながら手術前治療を行つても一向に小さくならず、結局何とかそれ以上進まないというところまで持つていけ腫瘍も取り切れて、この困難な手術を成功させています。その後の再発も見られず現在もとてもお元気です。これなどは他科との連携体制が非常にスムーズに行えている証拠だとも言えます。

医療がどんなに進歩を進めよ

助教
宮崎 涼平 (みやざき りょうへい)
高知大学 2007年 卒業
[専門分野] 呼吸器外科全般
[専門医等資格] 外科専門医、呼吸器外科専門医、気管支鏡専門医、がん治療認定医、肺がんCT検診認定医、胸腔鏡安全技術認定医、Certificate of da Vinci System Training (Console Surgeon)

医員
古川 直紀 (ふるかわ なおき)
高知大学 2021年 卒業